

第7次埼玉県地域保健医療計画に基づく病院整備計画の整備計画報告書

- 1 医療機関名：医療法人社団東京石心会 さやま地域ケアクリニック
- 2 所在地（開設予定地）：埼玉県狭山市鶉ノ木1番33号
- 3 整備する病床の機能・数

【変更後】 整備計画病床 19 床

医療機能*	病床機能報告区分	病床種別	入院基本料・特定入院料	病床数
在宅療養支援	回復期	一般	有床診療所入院基本料1	19
計	—	—	—	19

*回復期機能、がん医療、脳卒中医療、心血管疾患医療、救急医療、周産期医療、緩和ケア等整備する病床が担う医療機能を記載

【変更前】 整備計画病床 19 床

医療機能*	病床機能報告区分	病床種別	入院基本料・特定入院料	病床数
在宅療養支援	回復期	一般	有床診療所入院基本料1	19
計	—	—	—	19

見直しに当たった考え方、変更後病床数の根拠

在宅療養患者 2018 年度の実績より、在宅療養患者のサブアキュート 134 人（内レスパイト 14 人）、施設等・無床診療所からのサブアキュートおよび病院からのポストアキュートとして 212 人の入院患者を見込み算出。

○入院患者数（134 + 212）人 × 平均在院日数 20.0 日 ÷ 365 日 = 19 床

4 スケジュール

	項目	完了（予定）年月
1	開設（変更）許可（医療法）	平成31年 9月
2	建築（着工）	平成31年10月
3	建築（竣工）	平成31年10月
4	医療従事者の確保	平成31年10月

5	使用許可（医療法）	平成31年11月
6	開設（増床）	平成31年11月

5 整備方針、目標

○地域医療を支えていくために圏域で果たす役割、機能

#超高齢化社会、それに伴う患者の重症化、多死社会の到来は在宅医療の在り方を大きく変えつつある。在宅患者の病態変化、急激な症状悪化から看取りに対応できる病床の必要性が高まっている。

#単身・老老介護等、核家族化が一層進み、住まう場所においても『自宅』以外の、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、グループホーム、特別養護老人ホームといった、いわゆる『居宅系施設』が増えている。狭山市内においては2019年5月現在で2,275病床を有しており、調子を崩した患者の入院先がない、施設で看取れない、または急性期は脱したが、施設に戻ることができない等の問題が起きている。

当院では、上記問題に対応するために有床化を進め、医師会と連携し在宅医療の拠点としての役割を担っていく。

○新たに担う役割

#難病、癌の疼痛管理や尿道カテーテル、経管栄養、吸引など一般的な施設利用が難しい患者の在宅生活継続のためのレスパイト機能を担う。専属の相談窓口を設け、診療所、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、施設等からの相談を広く受ける。

#サブアキュート、ポストアキュートの患者を受け入れ、急性期からの継続したりハビリテーションを提供し、『生活』により近い『診療所』の立場で、在宅生活へのなだらかな移行を支援する。

○将来の方向性

#地域包括ケアシステムの中で『住まう人』を中心に、医療・介護・福祉が連携していく『ハブ』の機能を担う、医療から介護までを一貫して取り組む包括的な支援ができる診療所。

○現在の体制で対応できていない患者と今後の見込み 等

#重装備な医療の必要がない患者でも、在宅での管理困難な場合は急性期病院に送らざるを得ない状況であり、有床となれば患者の日常を理解した医療者による過不足ない医療の提供、スムーズな在宅復帰が見込める。

#在宅医療を希望している介護度の高い患者の需要が増加することが予測されるので、医療、介護の機能分化を図るため介護施設との連携を更に深めていかなければならない。それには内科、皮膚科、緩和医療内科の専門医の知識を生かし、特別養護老人ホームでの看取りなど積極的に支援していく。

#医療資源、医療依存度の高い難病患者の受け入れもあることを踏まえてオンコール体制ではなく宿直体制を準備していく。

【増床病棟】(※有床診療所についても準じて記載してください。)

病棟名	病床数	病床機能報告区分	平均在院日数	病床利用率
病棟	19床	回復期		
	一般療養	入院基本料・特定入院料	有床診療所入院基本料1	
診療科 内科、人工透析内科、皮膚科、緩和ケア内科、リハビリテーション科、				
患者の受入見込み (※名称、数値(人数、病床数に占める割合)について具体的に記入してください。)				
【増床前】 ※既存病床無し。		【増床後】 ○在宅療養患者の入院(サブアキュート・レスパイト) 134人 ※2018年度実績内訳 ・埼玉石心会病院 108人 ・入間川病院 10人 ・狭山中央病院 5人 ・大生病院 2人 ・至聖病院 2人 ・その他病院 7人 ○施設等・無床診療所・病院からの入院(サブアキュート・ポストアキュート) 212人 急性期病院他からの受入で、地域包括システムに協力していく。 ※2018年度実績、施設等からの入院患者数 366人/年の内、2018年10月～2019年3月実績内訳(提供:埼玉石心会病院) ・有料老人ホーム 70人 ・サ高住 30人 ・軽費老人ホーム 10人 ・特別養護老人ホーム 90人 ・老人保健施設 15人 ・グループホーム 10人 ・その他在宅系施設 17人 ・障害者施設 2人		

医療（介護）連携見込み

（※具体的に記入してください。）

【増床前】 ※2018 年度実績

○在宅医療実績（参考）

- ・訪問診療開始患者数 年間 246人
- ・訪問診療月平均患者数 月間 135人
- ・訪問診療延べ件数 年間3011件
- ・緊急往診件数 年間 327件
- ・自宅看取り患者数 年間 64人

○紹介元（訪問診療の依頼元）※順不同

<医療機関>

#特定機能

国立がん研究センター中央病院、西埼玉中央病院、埼玉医科大学国際医療センター、東京病院、防衛医科大学校病院、国立国際医療研究センター病院

#一般

JR東京総合病院、

#回復期・療養

大生病院、霞が関南病院、所沢ロイヤル病院、原田病院

#診療所・外来

埼玉石心会病院、さやま総合クリニック、ホームケアクリニック青梅、山田クリニック

<居宅介護支援事業所>

#狭山市

あずみ苑入間川、至聖在宅介護支援センター、居宅介護支援事業所オリーブ、居宅介護支援事業所ちゃのみ、居宅介護支援事業所ファインケア狭山、ケアプランセンター椿、ケアプラン明和、ケアプラン吉田、在宅介護支援センターかけはし、さやま苑在宅介護支援センター、狭山台地域包括支援センター、狭山中央ケアプランまごころ、石心会在宅介護支援センター、つつじの園在宅介護支援センター、ニチイケアセンター

#入間市

【増床後】

○前方連携

開かれた病床と断らない医療の実践による入院・訪問診療の受入を行っていく。

○後方連携

退院・訪問診療終了時の必要な医療と介護の支援は連携を取りながら行っていく。

○連携先

#在宅医療支援ベッドの協力医療機関として各医師会等。

#介護付有料老人ホーム

あいの郷、アシステッドリビング川越、イリーゼ入間、イリーゼ狭山、イリーゼ鶴ヶ島、イリーゼ所沢西、家族倶楽部、家族の家ひまわり狭山、サニーライフ入間、サニーライフ狭山、さわやか日高館、すこや家・南大塚、住まいる入間、ところざわ翔裕館、ふるさとホーム狭山、ふるさとホーム日高、ベストライフ入間、ベストライフ鶴ヶ島、ベストライフ所沢、ベストライフ飯能、メディス川越、ラヴィーレ入間、ラヴィーレ狭山、ラヴィーレ飯能、ル・レーブ狭山、J'sハウス川越新宿、至仁会住宅型有料老人ホーム憩、イルクオーレさいたま日高

#サービス付き高齢者向住宅

アップルリビング、入間藤沢後楽園、エクラシア川越、エクラシア狭山、ケアタウンつどい南大塚ハーモニーライフ鶴ヶ島、日高のんびり館、ファインケアあおぞら、ぶどうの樹、ブリエライフ狭山、ベテラン館こまがわ、ホームステーションライフ入間、ホームステーションライフ狭山、ボワ・ヴェールひだか、マザーズハウス入間、みんなの家、メディカルホームふじみ野、レジデンスふじみ野、

<p>あじさい居宅介護支援事業所、杏樹苑在宅介護支援センター、入間在宅介護支援センター、おおぎ在宅介護支援センター、居宅介護支援事業所てのひら、在宅介護支援センターはらだ、西部地区地域包括支援センター、東金子地区地域包括支援センター</p> <p>#その他 あずみ苑みずほ、居宅介護支援事業所萌木</p> <p><訪問看護ステーション></p> <p>#狭山市 いきいき訪問看護ステーション、地域ケアステーションゆずり葉</p> <p>#入間市 西武訪問看護ステーション、ハート訪看護ステーション</p> <p><その他> 狭山市在宅医療支援センター</p> <p>○紹介先（訪問診療終了による）</p> <p>#一般・緩和ケア、埼玉石心会病院、狭山中央病院、至聖病院、桜町病院</p> <p>#療養 狭山博愛病院、大生病院、所沢ロイヤル病院、飯能靖和病院、前田病院</p> <p>#転院 澤田医院</p> <p>#外来 さやま総合クリニック、入間川病院</p> <p>#老健 愛、狭山ケアセンター</p> <p>#特養 入間老人ホーム、オリーブ、爽風館、聖愛苑、つつじの園、広瀬の杜</p> <p>#特定施設 ブリエライフ、エクラシア川越、ニチイホーム江古田の森、ローゼンハイム上山</p>	<p>我が家入曾、和楽久日高ふるさと館</p> <p>#軽費老人ホーム 柏苑、ケアハウス狭山ヶ丘、ケアハウス主の園、ケアハウスマナ、ケアハウス薫風苑、シルバーハウス希望の園</p> <p>#特別養護老人ホーム あしかり苑、敦徳園、杏樹苑、杏樹苑爽風館、入間老人ホーム、上野台の里、扇掲苑、オリーブ、鍵山苑、清光苑、康寿苑、さやま苑、ジョアン宮地の里、真寿園、太行路、つつじの園、八瀬の里、ひろせの杜、福寿の里、ベテラン館、本郷希望の丘、むさしの園、むさしの園わかば、亀令園、清雅園、</p> <p>#老人保健施設 アヴニール、いるまの里、エスポワール所沢、介護老人保健施設いぶき、かがやき、上福岡リハケアセンター、狭山博愛、日高の里、遊</p> <p>#グループホーム あったかホーム飯能、グループホーム暖家、ソラスト川越、ハピネス狭山、見晴らしの家、みんなの家・川越新宿</p> <p>#障害者施設 大樹館</p>
--	--

6 既存病棟の概要
※既存病床無し。

7 医療従事者（※確保予定の人員には、増員となる人数を記載してください。）

職種	現在の人員（人）			確保予定の人員（人）		
	常勤	非常勤		常勤	非常勤	
		実人数	常勤換算		実人数	常勤換算
医師	2	5	1.2		8	1.6
看護師	8	3	2.0	5		
その他	7	11	6.0	8		
計	17	19	9.2	13	8	1.6

確保状況・確保策、確保スケジュール

（※確保予定の人員について、確保策等を具体的に記載してください。）	
#医師	8名（昼2名、夜6名）法人医師リクルーターに委嘱
#看護師	5名 グループ事業所からの出向
#看護補助者	5名 公募
#薬剤師	1名 公募、紹介会社
#理学療法士	確保済み
#管理栄養士	1名 グループ事業所からの出向
#事務	1名 グループ事業所からの出向
※確保人員は、昨年出向保留しているグループ事業所の職員としているが、病床設置許可後に不足する場合、公募、紹介会社にて補充する。	

8 医療（介護）連携における課題、問題点

○回復期、慢性期医療機関：市町村、ケアマネジャーとの連携状況、待機患者の状況、在宅への移行はスムーズに行われているか 等

#患者の生と生活のために必要な医療と介護の連携、そして支援調整を医療福祉相談室が窓口となり専属のソーシャルワーカーが医師、看護師と連携しながら24時間365日の相談に応じており、行政ならびに各方面との連携および支援調整についても課題や問題はないと自負している。以下、2018年度の実状を記述する。

- ①訪問診療相談患者数268人、内246人に訪問診療を行った。介入できなかった22人は入院先医療機関から退院できなかった患者であった。
- ②介入患者のうち、『がん末期』の診断名がついた98人に対し、入院中等特段の理由がない限り7日以内に介入、0～3日以内に介入した患者は19人であった。
- ③狭山、入間、所沢、日高等、約10^{キロ}圏内で行われる退院支援カンファには可能な限り出席し、患者が安心して帰宅できるよう先方の医療機関と連携した。今後も継続していく。
- ④ケアマネジャーや訪問看護師と同行訪問を積極的に行っており、患者を中心に医療と介護が連携した地域包括ケアが提供されるよう心掛けている。介護分野を基礎職とするケ

アマネジャーが多い中、その連携として2018年度は2回交流会を企画開催し、時節のトピックスを取入れた知識習得と当院患者に限らず困ったときに相談できる顔の見える関係作りを行った。今後も継続して企画開催していく予定である。